

2020年3月期 第2四半期 連結決算説明会

2019年11月14日



株式会社 シード



証券コード
7743

1. 2020年3月期第2四半期業績総括

2. 2020年3月期見通し

参考資料

※連結数値でのご説明となります

1. 2020年3月期第2四半期業績総括

2. 2020年3月期見通し

参考資料

※連結数値でのご説明となります

売上高が好調 9月に消費税率引き上げの駆け込み需要

- 主力であるコンタクトレンズ売上高 前期比 **17.3%増**
ワンデーピュアシリーズ **+16%** 2ウィークピュア **+10%** ワンデーファイン **+21%** (単体卸売ベース)
- 海外売上高 前期比 **80.8%増** * 現地法人売上+当社から現地代理店への卸売合計
2019年3月期に買収したWöhlkの連結寄与 **+658百万円**

売上伸長 + 販管費抑制により増益

- 粗利率 前期比 **1.6%減** 粗利額 前期比 **11.0%増**
- 販管費 前期比 **8.6%増**
研究開発費・人件費は増加 ⇔ 広告宣伝費は下期に集中

概ね計画通りに推移

第2四半期連結決算:概要

金額単位：百万円 百万円未満切捨て

	2018年9月期	2019年9月期	前期比較		参考 2019年3月期
			増減額	増減率	
売上高	14,580	16,761	+2,180	+15.0%	29,489
粗利益	6,631	7,361	+729	+11.0%	13,369
(粗利率)	45.5%	43.9%	△1.6%		45.3%
販管費	5,594	6,075	+480	+8.6%	11,494
営業利益	1,036	1,285	+249	+24.0%	1,874
(営業利益率)	7.1%	7.7%	+0.6%		6.4%
経常利益	1,067	1,230	+163	+15.3%	1,840
親会社株主に帰属する 四半期純利益	705	568	△137	△19.5%	963

公表値における第2四半期進捗との差異について

金額単位：百万円 百万円未満切捨て

(連結)

	2019.8.9発表 通期業績予想	2019.11.8発表 上期実績	進捗率
売上高	33,100	16,761	50.6%
営業利益	2,100	1,285	61.2%
(営業利益率)	6.3%	7.7%	-
経常利益	2,050	1,230	60.0%
特別損失	※ 484	509	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,000	568	56.8%

※8月9日時点の実績値

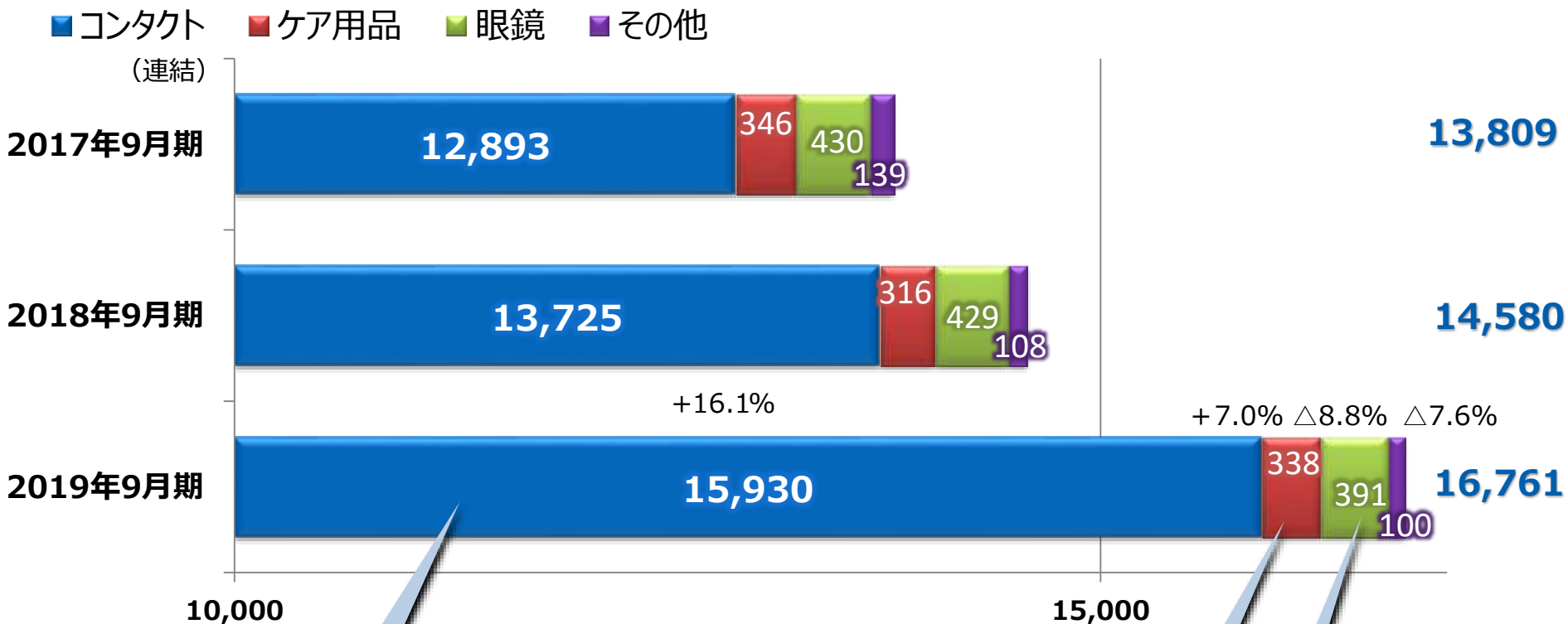
消費税増税の駆け込み需要により、9月に
CONTACT・ケアの売上が伸長

売上伸長+販管費抑制により増益

主にSensimed関連等の特別損失

売上高の状況：事業別

金額単位：百万円 百万円未満切捨て



ワンデーピュア 16%増
2ウィークピュア 10%増
ワンデーファイン 21%増
サークル・カラー 0%増

※対前期増減比率は単体卸売ベース
 ※ワンデーファイン以外はシリーズ合計

ケア市場は縮小傾向だが微増

主カブランド苦戦

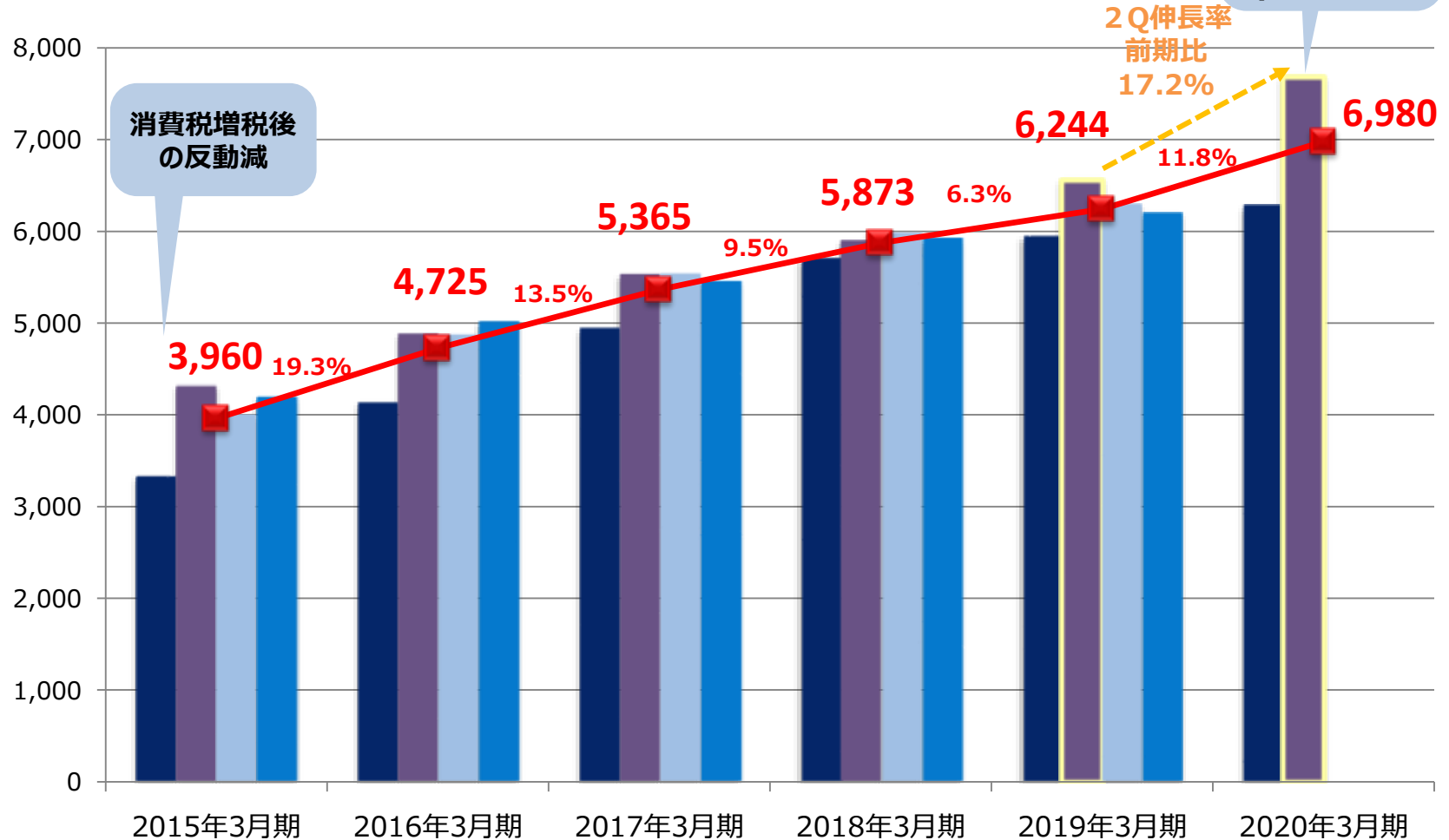
※その他：眼内レンズなど

金額単位：百万円 百万円未満切捨て

◆当社コンタクト売上高(単体卸売りベース)

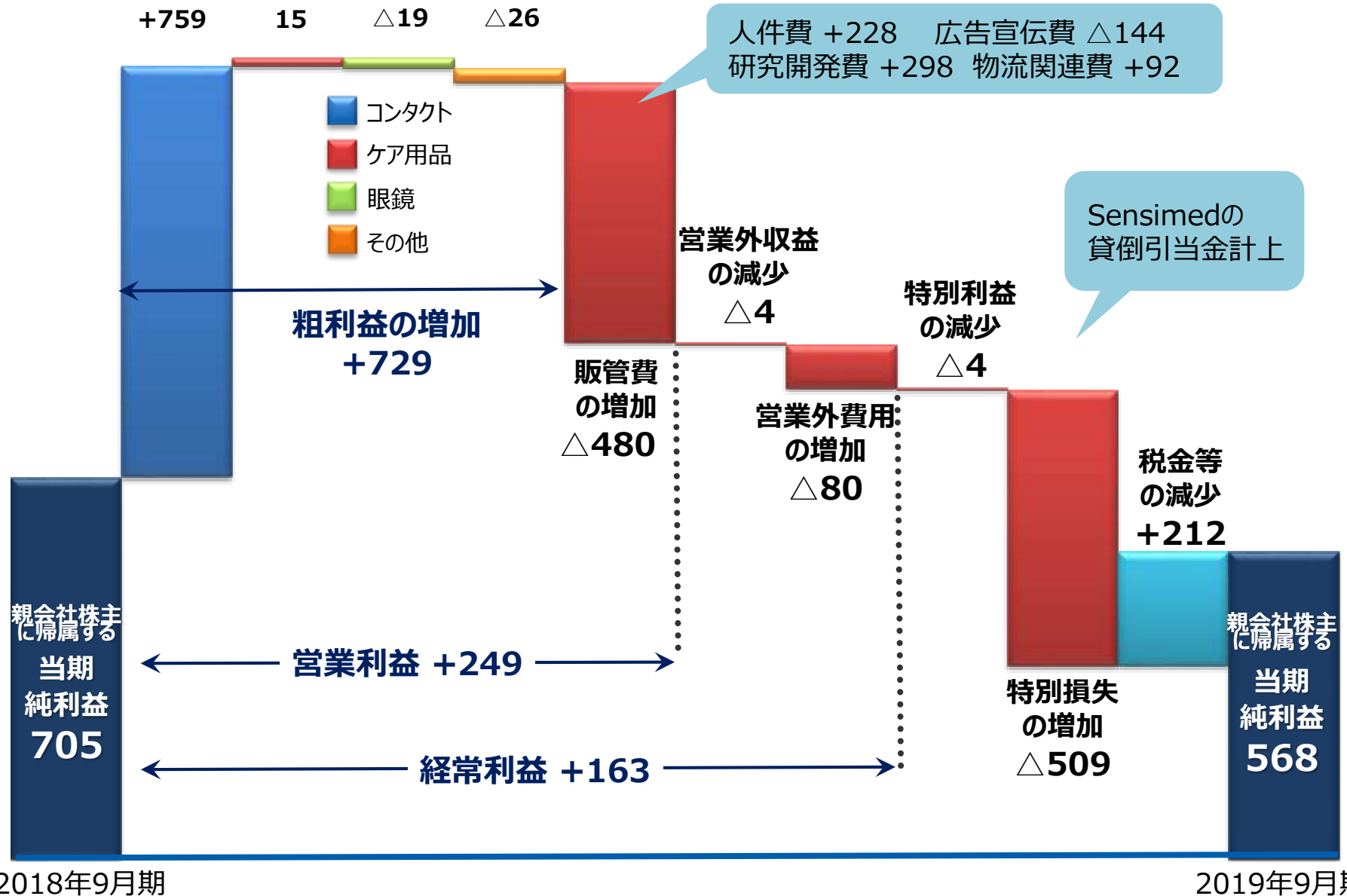
(連結)

■ 1Q ■ 2Q ■ 3Q ■ 4Q ■ 四半期平均



利益増減分析

金額単位：百万円 百万円未満切捨て



販管費の状況

金額単位：百万円 百万円未満切捨て



- **人件費** : Wöhik(ドイツ)連結化による人員増加
- **広告宣伝費** : 下期に1day遠近両用発売プロモーションを実施
- **研究開発費** : 研究開発人員の増強
トリガーフィッシュ臨床研究・シリコンハイドロゲル治験関係費用
スマートコンタクトレンズの開発
- **物流関連費** : 売上に伴い増加
- **その他** : 減価償却費、監査報酬、アドバイザー費用など

財務状況推移

金額単位：百万円 百万円未満切捨て

	2019年3月期		2019年9月期		前期末比較
	金額	構成比	金額	構成比	
資産の部計	39,946	100.0	41,578	100.0	+1,632
流動資産	17,131	42.9	17,443	42.0	+312
内 現預金	2,631	6.6	2,416	5.8	△214
たな卸資産	6,857	17.2	8,206	19.7	+1,348
前渡金	1,185	2.9	29	0.1	△1,156
固定資産	22,814	57.1	24,135	58.1	+1,320
内 有形固定資産	19,101	47.8	20,267	48.8	+1,166
無形固定資産	1,434	3.6	1,298	3.1	△135
負債の部計	29,169	73.0	30,607	73.6	+1,438
流動負債	18,291	45.8	19,425	46.7	+1,134
内 短期借入金	12,985	32.5	13,855	33.3	+869
固定負債	10,878	27.2	11,182	26.9	+304
内 長期借入金	5,217	13.1	5,484	13.2	+266
長期リース債務	2,656	6.6	2,772	6.7	+116
純資産の部計	10,776	27.0	10,970	26.4	+194
負債・純資産計	39,946	100.0	41,578	100.0	+1,632

新商品・リニューアル品
在庫の増加

海外製造委託商品に係る
前渡金

鴻巣研究所の設備投資

資産の増加分は手元利益
と借入金（長期・短期）に
て調達

金額単位：百万円 百万円未満切捨て

	2018年9月期	2019年9月期	前期比較
営業活動によるC・F	513	955	+442
内 税金等調整前純利益	1,071	721	△350
減価償却費	1,040	1,227	+186
売上債権の増減	177	△868	△1,045
たな卸資産の増減	△510	△1,376	△866
前渡金の増減	△1	1,156	+1,157
法人税等の支払額	△550	△316	+234
投資活動によるC・F	△753	△1,499	△746
内 有形固定資産取得支出	△782	△1,473	△691
連結範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	234	0	△234
財務活動によるC・F	502	313	△189
内 短期借入金の純増減額	1,500	959	△540
長期借入金の借入	895	1,560	+665
長期借入金の返済	△1,265	△1,378	△112
現金及び現金同等物 期末残高	2,056	2,416	+360

消費税増税前の売上増により売上債権が増加

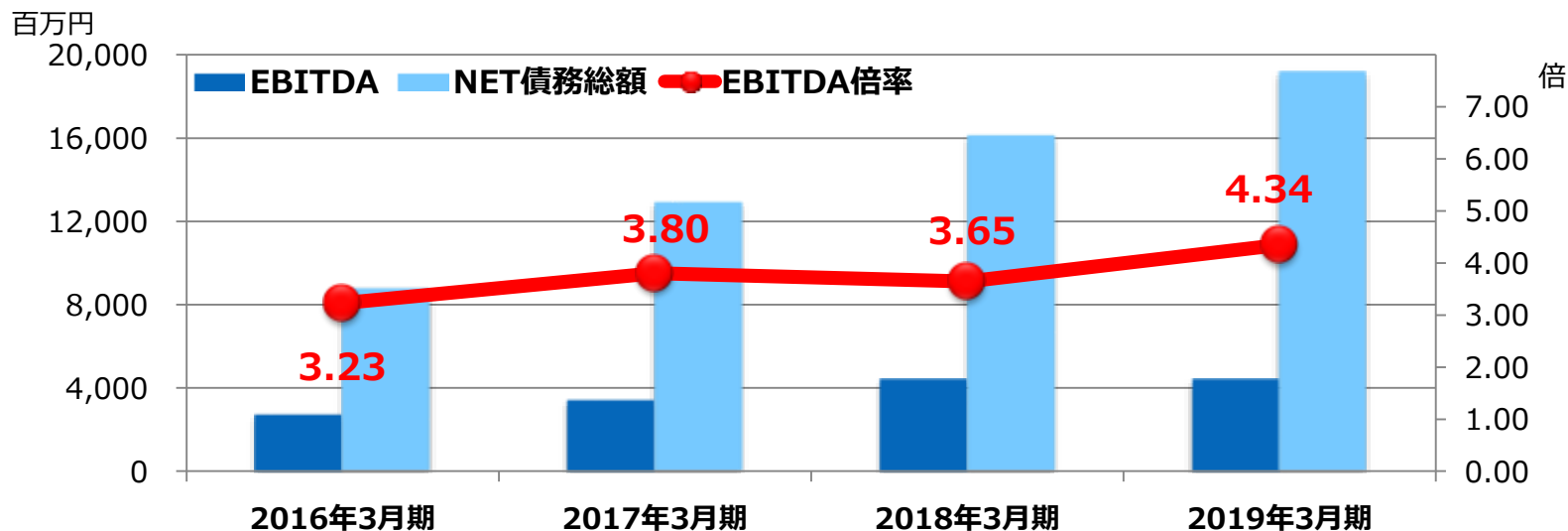
リニューアル商品在庫の増加

鴻巣研究所の設備投資

キャッシュ・フロー関連指標推移①

金額単位：百万円 百万円未満切捨て

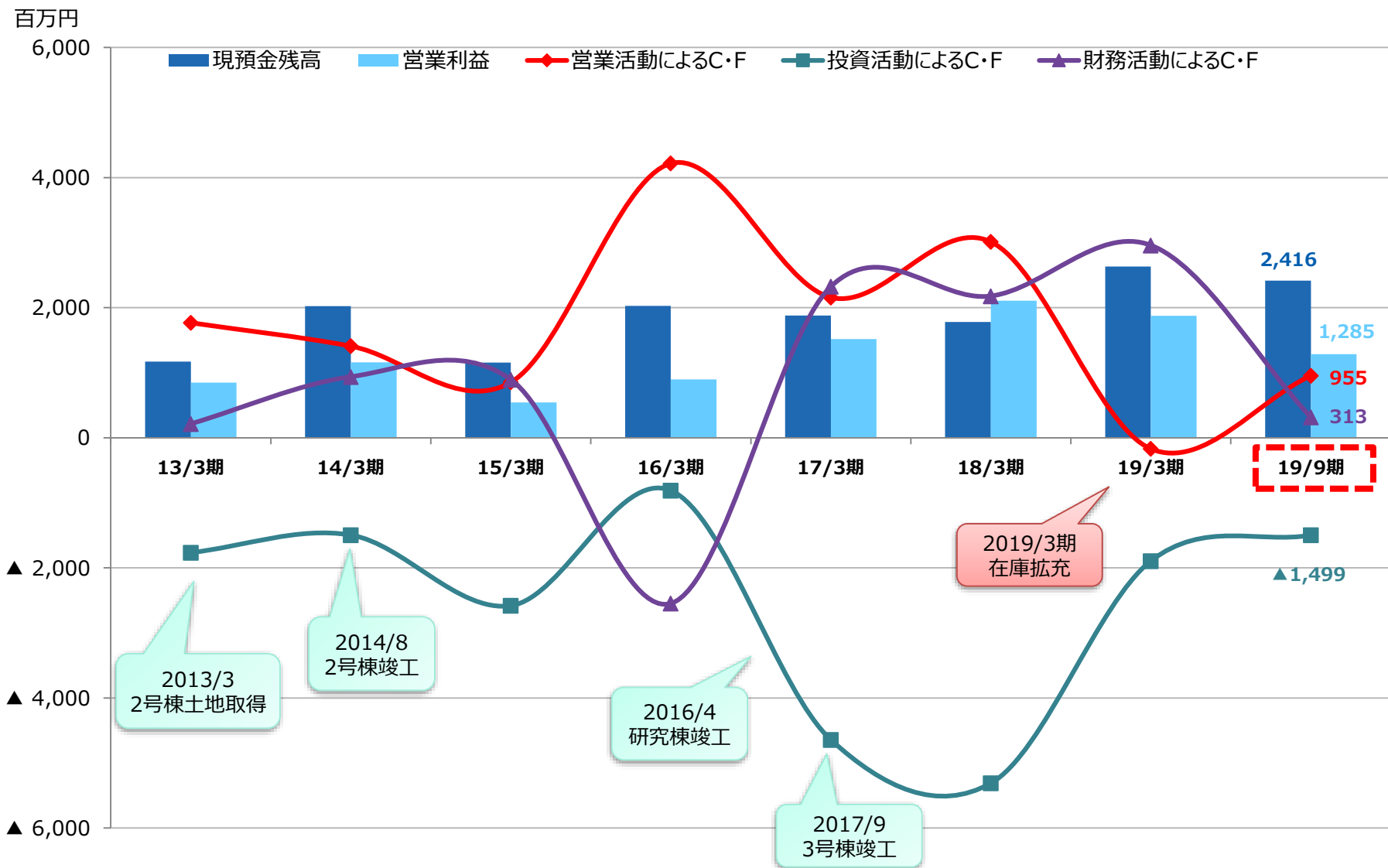
	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期	参考 2019年9月期
営業活動によるC・F	4,217	2,158	3,012	△170	955
投資活動によるC・F	△811	△4,643	△5,312	△1,895	△1,499
財務活動によるC・F	△2,548	2,322	2,177	2,957	313
EBITDA	2,729	3,406	4,422	4,415	2,611
EBITDAマージン EBITDA÷売上高	12.5%	13.9%	15.9%	15.0%	15.6%



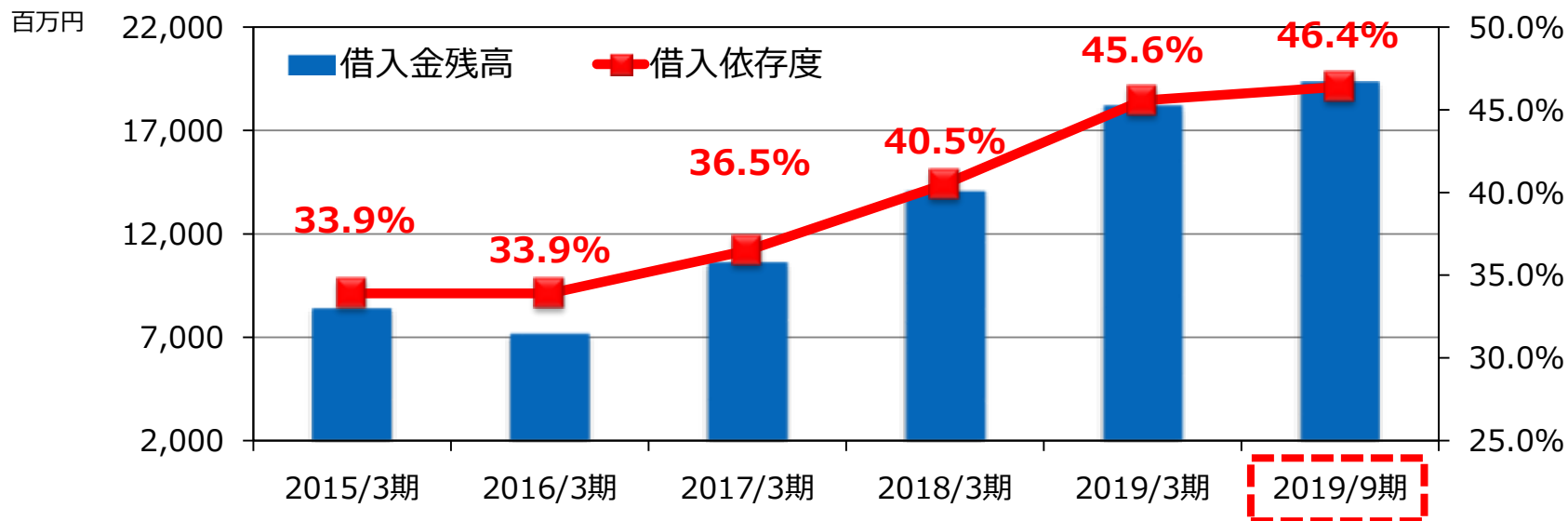
※EBITDA=経常利益+減価償却費+のれん償却+支払利息

※NET債務総額=有利子負債+リース債務-現預金

キャッシュ・フロー関連指標推移②前期まで参考

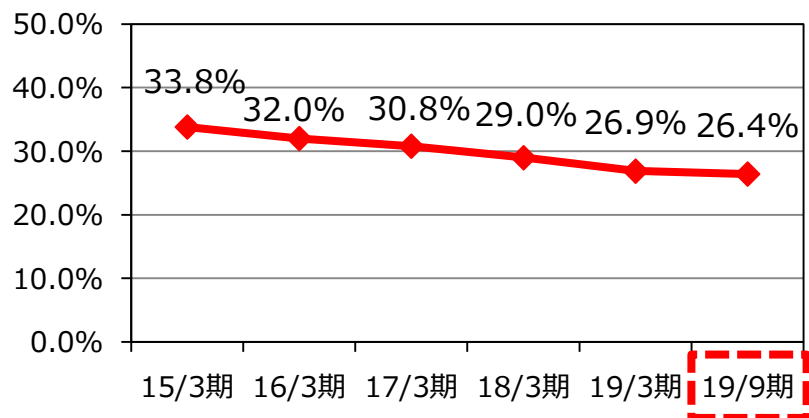


◆借入金の推移

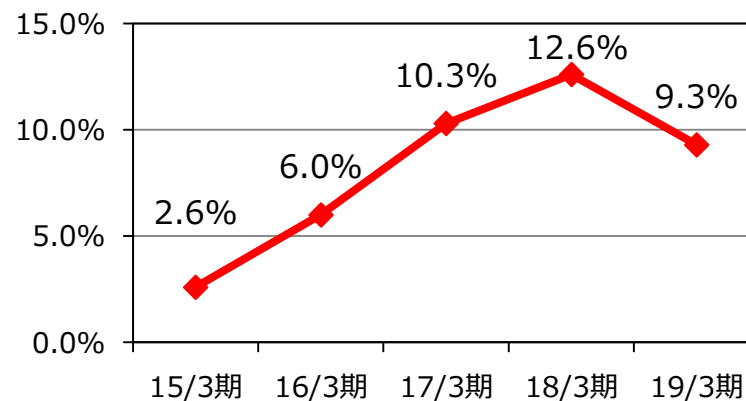


※借入依存度 = 有利子負債 / 総資産

◆自己資本比率



◆自己資本当期純利益率 (ROE)



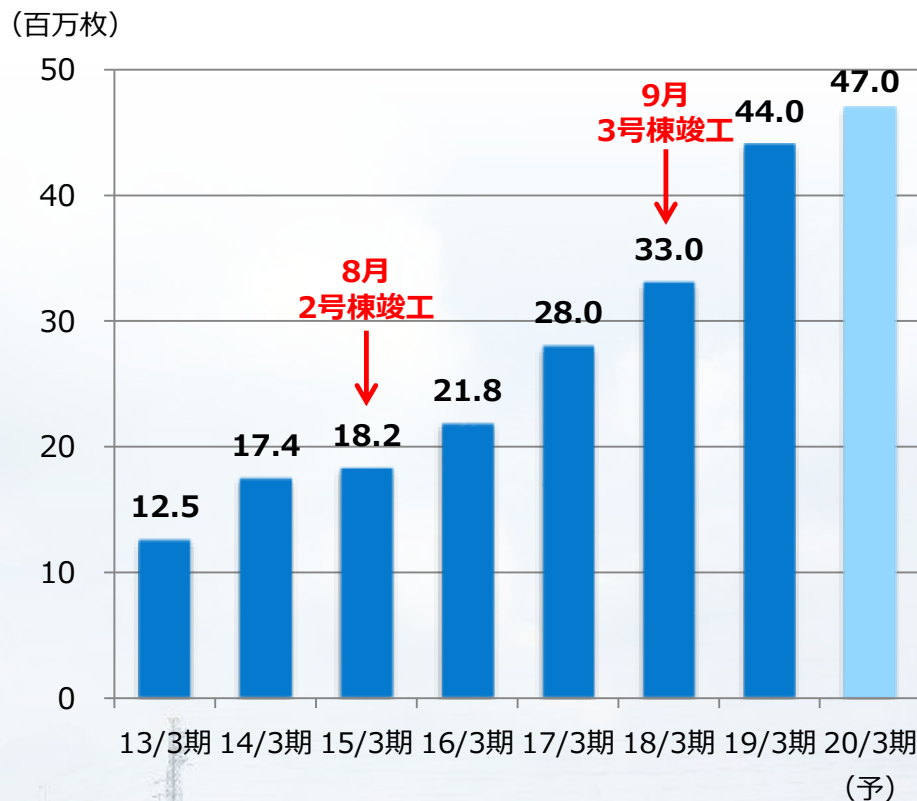
埼玉県にある鴻巣研究所の3つの生産棟（研究棟を除く）は、約4,700万枚/月のコンタクトレンズ製造能力を有しています。

＜鴻巣研究所全体の鳥瞰図＞



建物名	延べ床面積	ライン
1号棟	約14,200㎡	多品種対応ライン
2号棟	約9,700㎡	超大量生産ライン
3号棟	約12,500㎡	大量生産ライン
研究棟	約3,640㎡	—
資材倉庫棟	(建設中)	—
製品倉庫棟	(建設中)	—

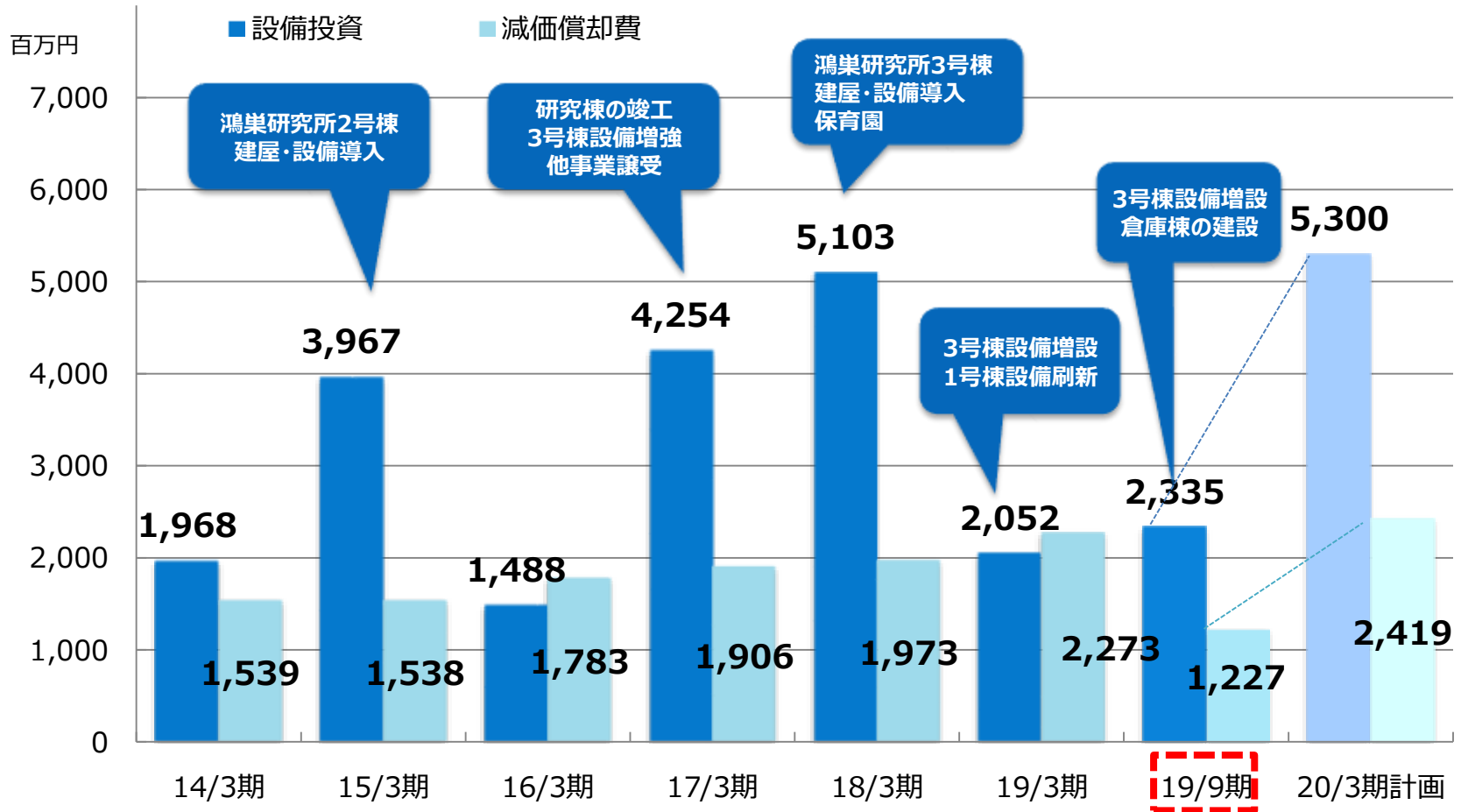
＜月間製造枚数推移（1day・2week）＞



設備投資・減価償却

◆設備投資・減価償却

業容拡大の対応、かつ企業活動継続のための投下



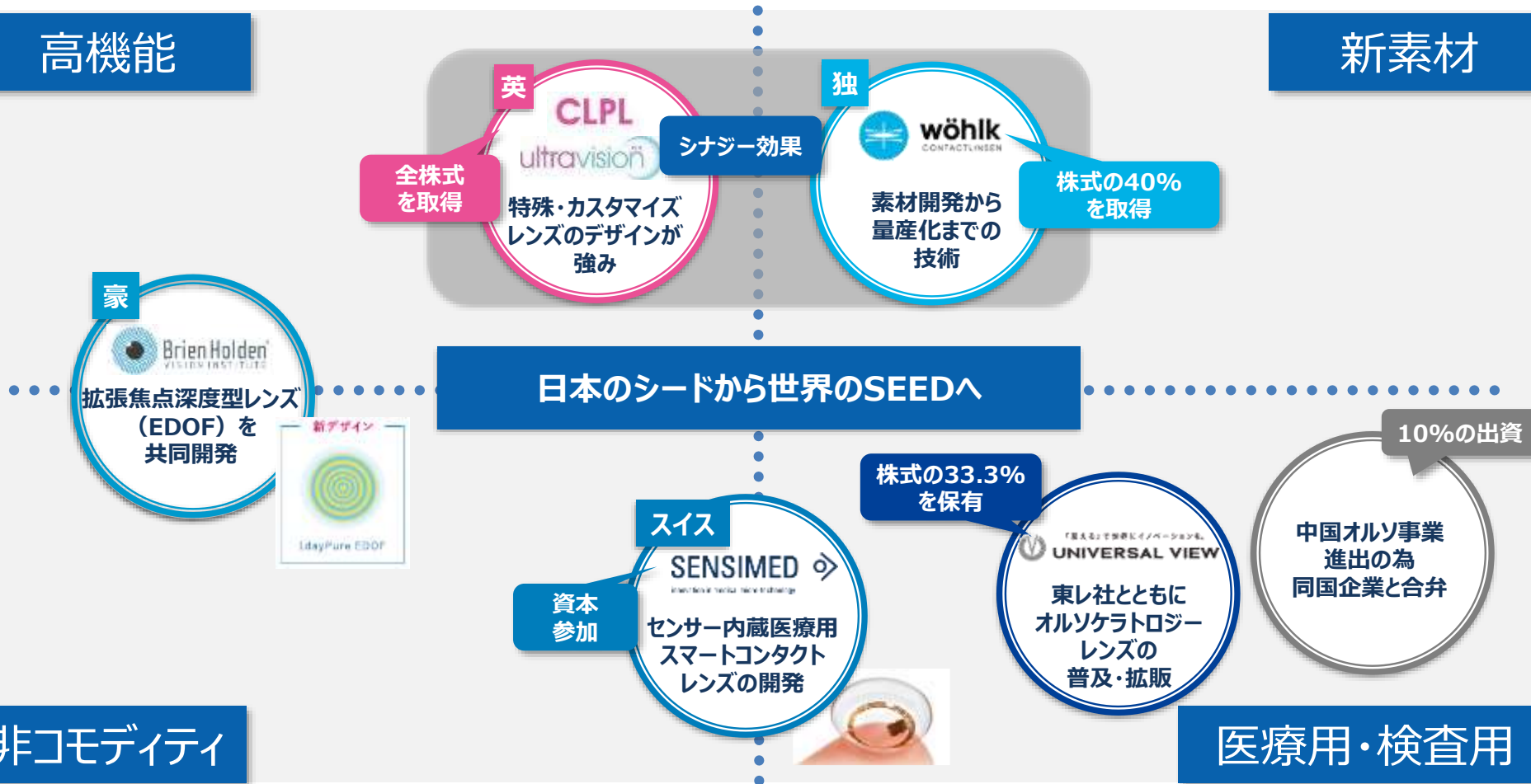
※設備投資額は、有形固定資産ベース(リース資産含む)

※減価償却費は、有形・無形(のれん除く)・長期前払費用

将来の成長戦略として直近3年間で**30億円超**をM&A(買収)・出資・その他投資

高機能

新素材



※その他、子会社への投資（新設・増資）も実施

今後も成長戦略上、必要なM&A(買収)・出資を随時検討・実施していく

海外展開①

アジア地域、ヨーロッパ地域を中心に**30の国と地域**に展開中（2019年11月現在）。
 既存取引国では、地域の特徴に即した展開を図りながら、未進出国へ積極的にアプローチしております。

Made in Nippon Japan Qualityを 世界へ

ヨーロッパ地域

-  ベルギー
-  イギリス
-  イタリア
-  デンマーク
-  ノルウェー
-  スウェーデン
-  アイスランド
-  フィンランド
-  ドイツ
-  ポルトガル
-  スイス
-  オランダ
-  ハンガリー
-  フランス

 **オーストラリア現地法人を設立・出荷開始**

 **フランス出荷開始**
 **ネパール出荷開始**

 **ベトナムにてハノイ・ホーチミン**
それぞれに営業所を構え販路を拡大

アジア地域

-  **中国**
-  **シンガポール**
-  **モンゴル**
-  **マレーシア**
-  **香港**
-  **マカオ**
-  **台湾**
-  **ベトナム**
-  **フィリピン**
-  **インドネシア**
-  **インド**
-  **レバノン**
-  **バングラデシュ**
-  **ネパール**
- **オーストラリア**

NEW

※太字は現地法人

台湾

JILLSTUART 1day UV ローンチ



ベトナム

ガラ ディナー



ラオス

AOC※とオプトメタリスト育成
支援共同プロジェクト発足。
検眼環境の発展を図る

※ASIA OPTOMETRIC CONGRESS



4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

ネパール

出荷開始

イギリス

BCLA 学会出展



フランス

出荷開始

シンガポール

JILLSTUART
1day UV

ローンチ

オーストラリア

現地法人設立・出荷開始

上海

JILLSTUART 1day UV
ローンチ

アジア地域、欧州市場ともに、ニーズを的確に把握し多様な商品展開をおこなっていきます。

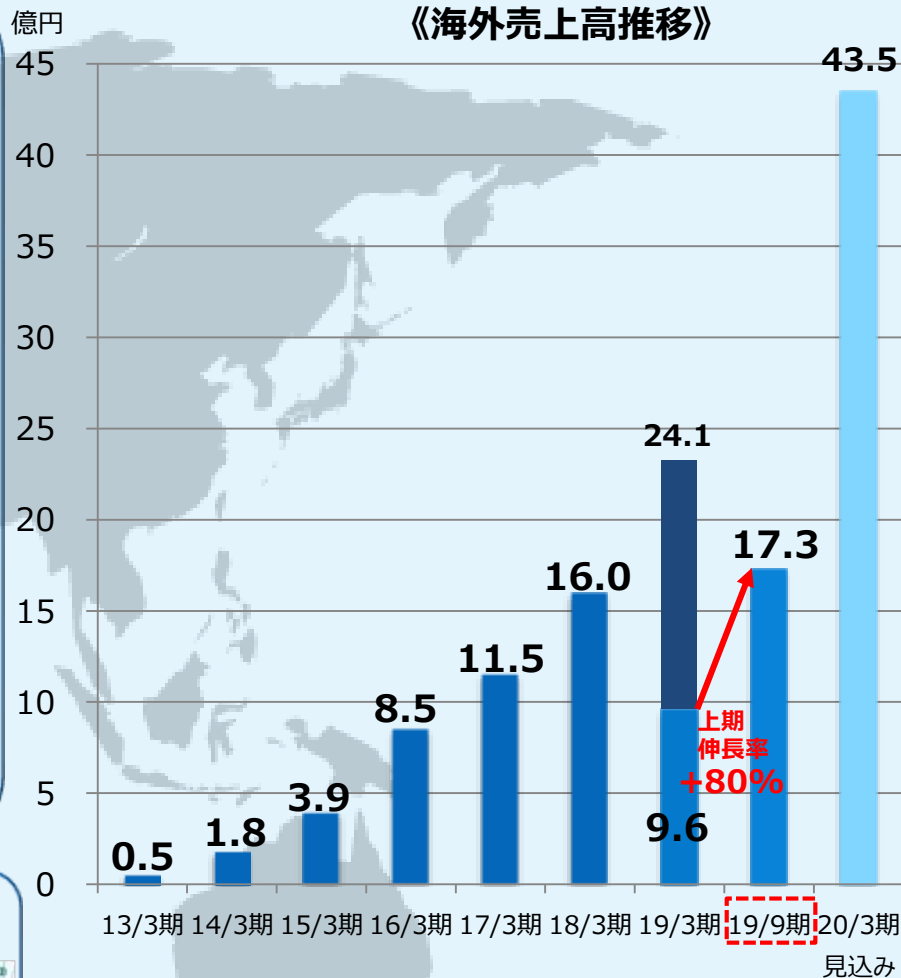
〈中国・台湾等現地の主要商品群〉



〈欧州向けCE適合商品〉



《海外売上高推移》

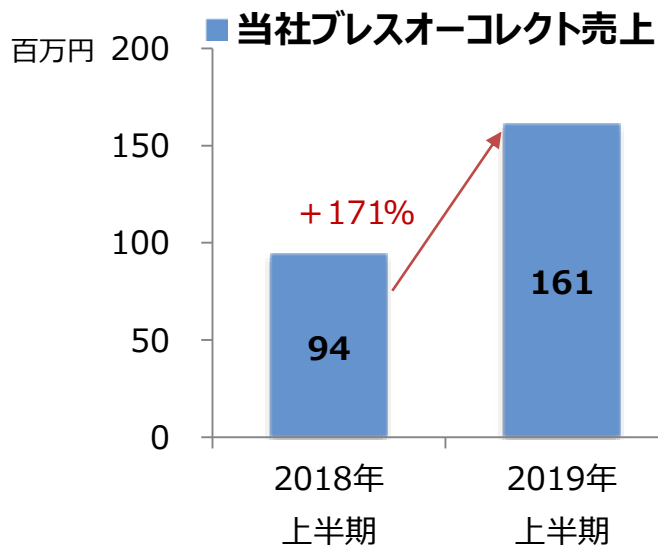


※現地法人売上 + 当社から現地代理店への卸売合計

3社間で商品の相互供給や共同開発、ライセンス付与等を対象に「効率的な製造・販売体制の構築」を推進



オルソケラトロジーの国内外における普及、拡販を進めることがシードの使命



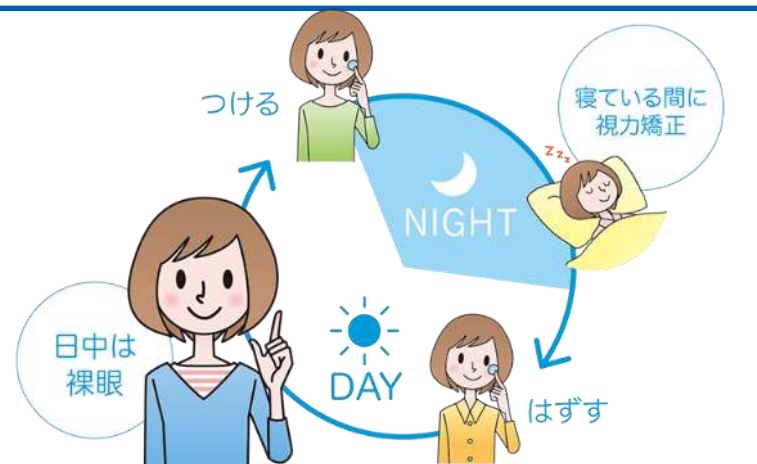
製品競争力を高め、国内販売体制を一層強化していくとともに、アジア各国への輸出の体制を整え、新しい視力矯正手段であり成長が期待されるオルソケラトロジーレンズへの理解と一層の普及に努めてまいります。

10月より、東レ(株)からシードにブレスオーコレクトの総販売元を移管しました。

オルソケラトロジーとは？

オルソケラトロジーレンズを就寝前に装用することで睡眠中に角膜の形状が矯正されます。

朝起きて外した後も、しばらく角膜の形が矯正された状態で維持され、その間は視力が回復します。



1. 2020年3月期第2四半期業績総括

2. 2020年3月期見通し

参考資料

※連結数値でのご説明となります

連結売上高 グループ初の330億円突破を目指す

- ワンデーピュアシリーズを基盤とした機能性商品
+新商品・リニューアル商品の拡販

コンタクト売上高 **13.8%** 増

SEED 1dayPure EDOFの生産、日本・海外展開

- 海外子会社の事業拡大

海外売上 ※ **43億円** ※現地法人売上+当社から現地代理店への卸売合計

売上高に対する海外売上高比率 **10%**突破を目指す

海外子会社の運営強化

当社初のシリコンレンズの生産・発売

国際化に対応した体制強化
経費・在庫管理の徹底

商品・販売戦略

- 高付加価値商品の市場投入
(シリコン素材CL・EDOFレンズ)
- 多様化する流通チャネルへの対応強化
- 事業の集中：眼鏡・ケア事業の適正化

財務の健全性向上

- 経費管理の徹底と適正化
- 在庫の削減によりキャッシュを捻出

国際化対応

- 社内の国際化を進め、海外市場での売上拡大を狙う
- 海外子会社であるCLPL・Wöhlkとのシナジー効果
- 中国向け越境ECサイトでの販売開始

生産力拡大

- 生産効率向上による原価低減
- 多品種少量生産への対応
- 絶対量の拡大

2020年3月期見通し：概要

金額単位：百万円 百万円未満切捨て

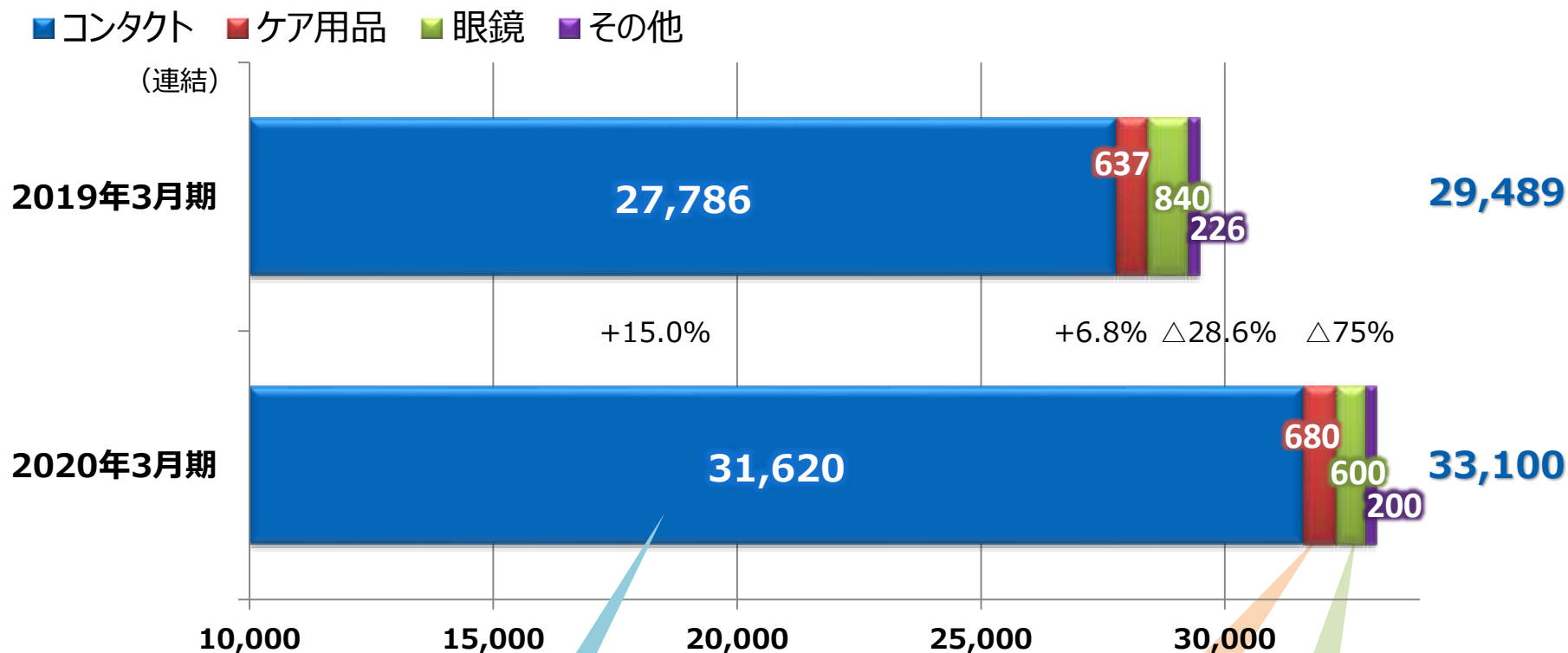
(連結)

	2019年3月期	2020年3月期見通し	前期比較	
			増減額	増減率
売上高	29,489	33,100	3,611	+12.2%
売上総利益	13,369	15,600	2,231	+16.7%
販管費	11,494	13,500	2,006	+17.5%
営業利益	1,874	2,100	226	+12.0%
(営業利益率)	6.4%	6.3%	△0.1%	
経常利益	1,840	2,050	210	+11.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	963	1,000	37	+3.8%

2020年3月期は2019年8月9日発表の連結通期業績予想に対して、概ね計画通り推移

2020年3月期見通し：売上高事業別

金額単位：百万円 百万円未満切捨て



- ・ワンデーピュアシリーズの出荷増や新商品の投入
- ・乱視・遠近両用・サークル・カラー等の高付加価値アイテムの販売促進
- ・海外事業拡大により売上高伸長

- ・市場縮小傾向
- ・OEM商材の強化

- ・眼鏡営業拠点集中
- ・眼鏡小売事業縮小

※オルソケラトロジー・トリガーフィッシュは、2020年3月期第1四半期決算短信よりセグメントをコンタクトレンズに変更しております。

2018年6月1日開示 3ヶ年中期経営計画

～ 61年目からの新たな挑戦～
日本のシードから世界のSEEDへ
“より多くのお客様の『見える』をサポートする”

製造メーカーとしての生産規模の拡大と製品の多様化を実現し、
連結売上高400億円を目指す土台作りの3年間と位置付ける

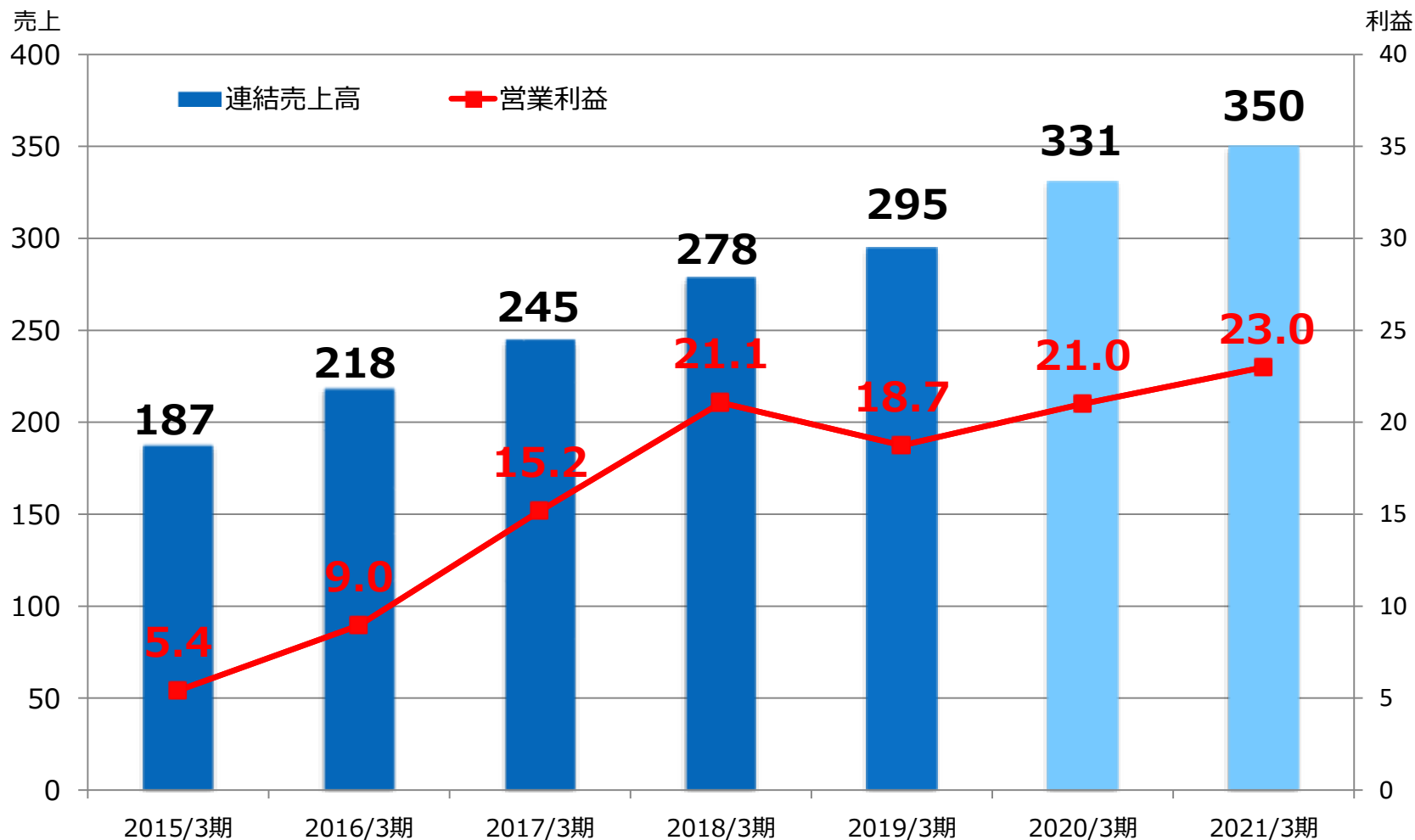
“『*Made in Nippon*』と『*Japan Quality*』のプライドを通じて
安全で高品質な製品とサービスを提供することを追求”

日本国内での安定した成長と同時に積極果敢な世界展開を実現
積極的に研究開発費用を投下し、計画的かつ確実な研究成果（商品開発）を実現
省人化・自動化などの技術力の向上により規模の拡大・多品種少量生産を実現
検査用・治療用・医療用等の新たな付加価値をコンタクトレンズに実現
ダイバシティーと多様な働き方を実現、CSR（企業の社会的責任）の充実

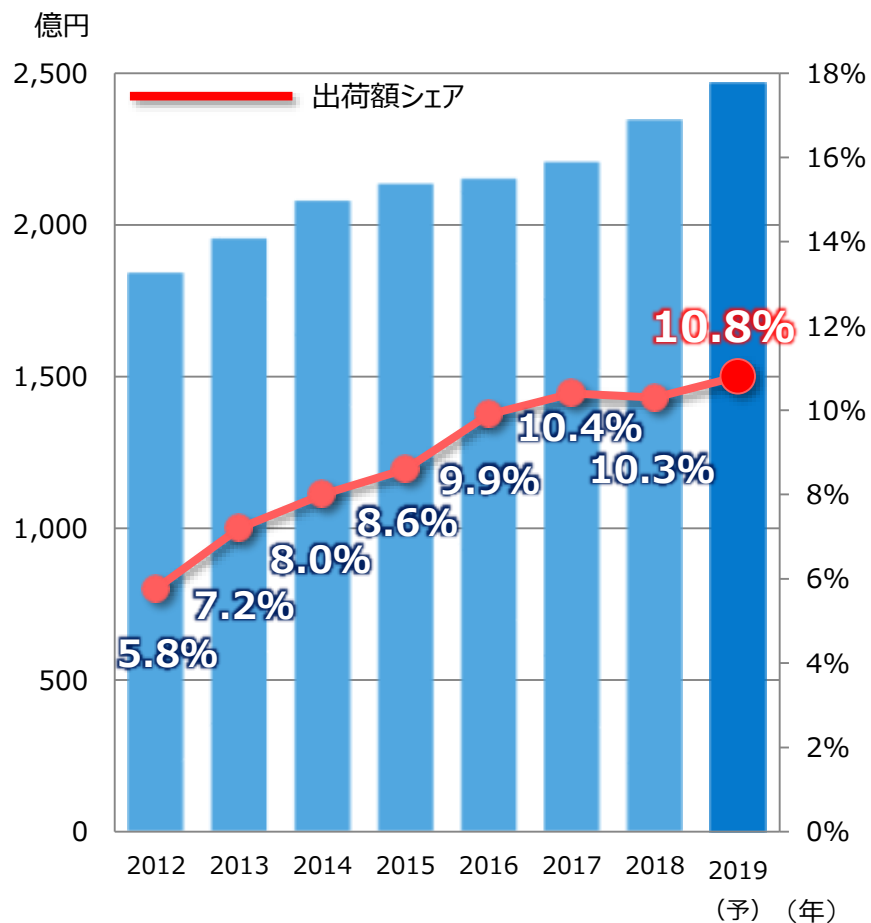
2021年3月期の姿 ～目指すべき数字～

2020年3月期に初の連結売上高300億円を突破～2021年3月期には350億円を目指し、将来の400億円、500億円を展望。営業利益率は安定的な向上を図ります。

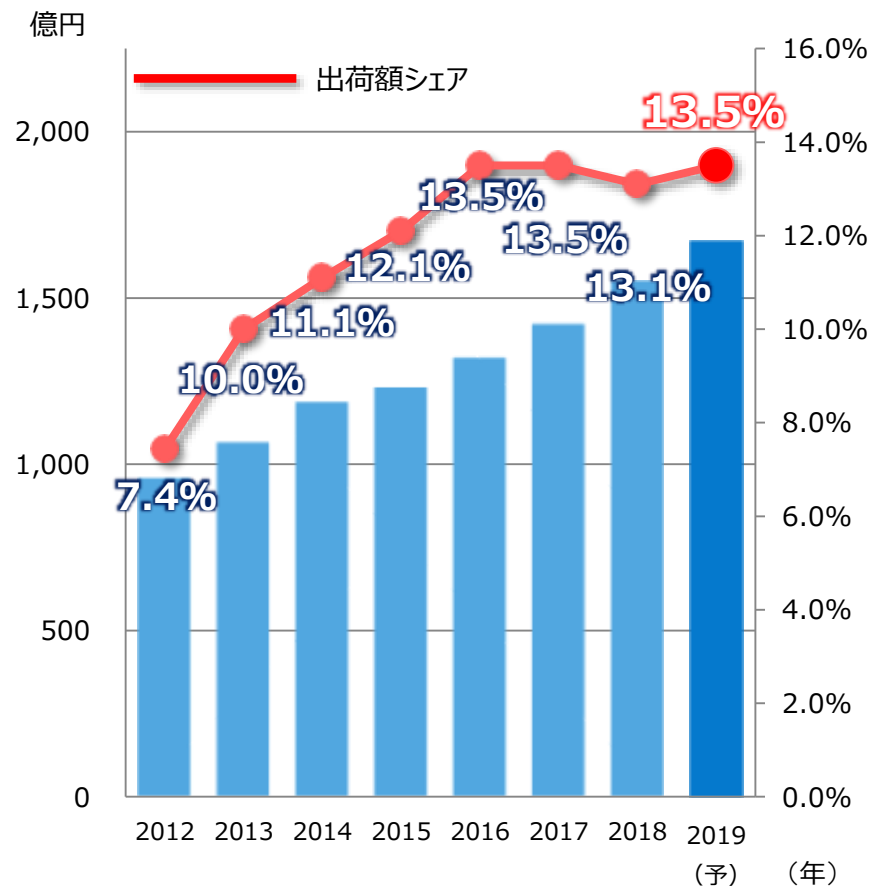
(単位：億円)



《コンタクトレンズ市場と当社シェア》



《1日使い捨てタイプ市場と当社シェア》



※メーカー出荷額ベース(当社推計:日本コンタクトレンズ協会出荷額調査ベース)

1. 2020年3月期第2四半期業績総括
2. 2020年3月期見通し

参考資料

- 本社：東京都文京区本郷二丁目40番2号
- 設立：1957年10月9日(昭和32年)
- 上場：1989年12月(平成元年12月) 店頭公開(現 JASDAQ市場)
- 資本金：1,841百万円
- 従業員：1,021名(連結) ※2019年9月30日現在
- 営業所：8 (札幌・東京・名古屋・大阪・福岡 他)、その他駐在11 (盛岡・静岡 他) ※2019年9月30日現在
- 工場・研究所：鴻巣研究所(埼玉県鴻巣市)

■ 沿革

- 1957年10月 会社設立 商号「(株)東京コンタクトレンズ研究所」
- 1985年11月 ブランド名をマイコンから「シード(SEED)」に変更
- 1987年2月 商号変更「(株)シード」
- 2007年7月 鴻巣研究所を竣工
- 2011年1月 鴻巣研究所 ISO13485取得、CEマーキング指令適合
- 2014年3月 東京証券取引所市場第二部に市場変更
- 2014年8月 鴻巣研究所2号棟竣工
- 2016年6月 研究棟竣工
- 2017年3月 東京証券取引所市場第一部に指定
- 2017年9月 鴻巣研究所3号棟竣工
- 2017年10月 おかげさまで創立60周年
- 2018年4月 保育・児童施設 ふくろうの森 開園



取扱商品 ~コンタクトレンズ~

1day・2weekコンタクトから、ハードコンタクトまで、幅広い商品展開で細分化するニーズにきめ細かく対応しています。

■ 純国産Pureシリーズ



シード1dayPure
うるおいプラス



シード1dayPure
うるおいプラスFlex



シード2weekPure
うるおいプラス



乱視用

シード1dayPure
うるおいプラス乱視用



遠近両用

シード1dayPure
マルチステージ

乱視用



シード2weekPure
うるおいプラス乱視用

遠近両用



シード2weekPure
マルチステージ

■ サークルレンズシリーズ



リニューアル

シード Eye coffret 1day UV M

NEW 乱視用

シード Eye coffret
1day UV M TORIC

リニューアル

ヒロインメイク
1day UV M



■ カラーレンズ



JILL STUART 1day UV

■ Fineシリーズ

リニューアル



シード1dayFine UV plus



リニューアル

シード2weekFine UV plus

■ 従来型コンタクトレンズ



ハードコンタクトレンズ
全7種8品



ソフトコンタクトレンズ
全4種



コンタクトレンズケア用品事業

コンタクトレンズを快適にお使いいただくためのケア用品を各種提供しています。



フォレストリーフ
ソフトコンタクトレンズ用
洗浄・保存・すすぎ液



ピュアティモイスト
酸素透過性ハードコンタクトレンズ用
酵素洗浄保存液



ジェルグリーンW
酸素透過性ハード・
ソフトコンタクトレンズ用洗浄液

眼鏡事業

イメージキャラクターを採用したオリジナルブランドのメガネフレームなどを展開しています。



プラスミックス
松岡宏大さんイメージキャラクター



ビビッドムーン
北川景子さんイメージキャラクター



Pheasant
FACET
femme

2019年12月12日 新発売

日本初、
医療発。
明日を変える遠近

SEED 1dayPure EDOF 32 lenses

見え方の変化に気づいたオトナの瞳に
SEED 1dayPure
シード ワンデービュア イードフ ED OF

※「シード1dayPure ED OF」は、EDOF(拡張焦点深度)の原理を
採り入れたコンタクトレンズとして承認を取得し、
日本で初めて製品化されたコンタクトレンズです。
販売名:シード1dayPure UP 承認番号:22100BZX00759000

EDOF とは ⇒ **E**:Extended **D**:Depth **O**:Of **F**:Focus
日本初の拡張焦点深度型 (EDOF) コンタクトレンズ
世界的研究機関“Brien Holden Vision Institute”と共に開発

新イメージキャラクター起用によるプロモーション実施予定!

2020年 海外にて新発売予定

当社初のシリコンハイドロゲルレンズ CEマーキング取得



ブラスター回収によるリサイクル活動を開始



◆プラスチック廃材のリサイクル

世界中で問題となっているプラスチックごみ問題。

なかでも海洋プラスチックごみは、生態系に甚大な影響を与えており、今後ますます悪化していくとみられています

外食産業ではストロー廃止など動き始めている中、プラスチック製品を使用している企業としての責任から、持続可能な社会を目指し発足したプロジェクトです。

7月～9月の3か月で
77kgのブラスターの回収を実現

企業・眼科施設等に設置のご協力をいただき、順次拡大してまいります！

シードは、国連の掲げる持続可能な開発目標 (SDGs)の17の目標のうち**5つ**に貢献します



『見える』をサポートすることで、社会に必要とされる企業であり続けます



2019年11月14日「サステナビリティ報告」をリリース

国内連結子会社

株式会社シードアイサービス

株式会社アイスペース

株式会社タワービジョン

* 株式会社ユニバーサルビュー

*持分法適用関連会社

海外子会社

*実瞳商易有限公司 (中華人民共和国)

* Wöhlk Contactlinsen GmbH
(ドイツ)

*SEED CONTACTLENS ASIA PTE.LTD.
(シンガポール共和国)

* SEED Contact Lens Europe GmbH
(ドイツ)

*台湾實瞳股份有限公司 (台湾)

SEED CONTACT LENS (M)SDN.BHD
(マレーシア)

*Contact Lens Precision Laboratories Ltd.
(イギリス)

SEED CONTACT LENS (ANZ) PTY LTD.
(オーストラリア)

* Ultravision international Ltd.
(イギリス)

SEED Contact Lens Europe S.A.
(ベルギー)

* SEED INTERNATIONAL LTD.
(イギリス)

SEED CONTACT LENS VIET NAM CO, LTD.
(ベトナム)

* : 連結子会社

SEED

「見える」をサポートします

本資料に関するお問い合わせ

株式会社シード 経営企画部

TEL 03-3813-1650

又はホームページお問い合わせフォーム

<http://www.seed.co.jp/contact/>

当資料の見込みに関しては、現時点において入手可能な情報及び当社の計画・戦略に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後の経済情勢・業界動向等、様々な要因により異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。

本資料の見通しや目標数値等に全面的に依存しての投資判断により生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。